

現役記者が見た沖縄のいま ～基地問題から考える私たちの平和～



なかむらりょうた
講師 仲村 良太氏 (琉球新報 東京支社 記者)

2016 5/27(金) 午後 6:00 開場 午後 6:30 開演

立川市女性総合センター・アイム

1階ホール **入場無料**

現役記者が見た沖縄のいま ～基地問題から考える私たちの平和～

MESSAGE

沖縄には在日米軍の基地があります。これは、太平洋戦争中に、沖縄戦終結後本土侵攻に向けて、米軍が作り始めたものです。終戦後も、沖縄が米国の統治下にあった間、米国による基地建設は続けられました。沖縄は、1972年に米国より日本に返還されましたが、沖縄には今もなお広大な米軍基地が残っており、沖縄本島の約18.8パーセントも米軍基地が占めています。

昨今、辺野古の基地移転問題が大変な問題となっており、テレビや新聞でも沖縄の基地問題に関する報道を目にすることが増えました。そもそも、基地問題は沖縄だけの問題なのでしょうか。米軍基地は沖縄だけでなく、日本各地に存在しています。この多摩地域にも横田基地が存在しており、在日米軍司令部や第5空軍司令部などの中枢機関が集中しています。私たちは、基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の平和や、安全保障に関する重要な問題であると考えています。

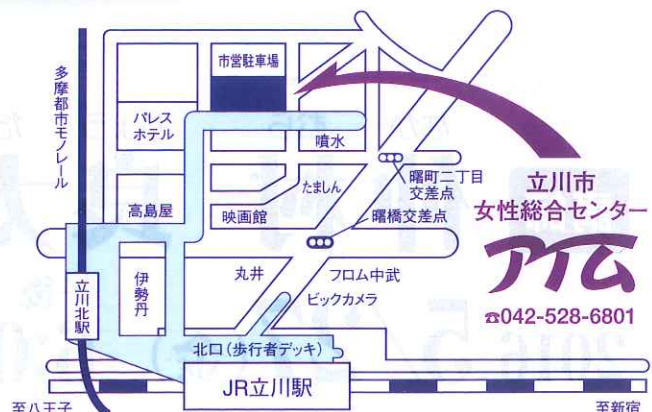
今年の「三多摩憲法のつどい」では、琉球新報の現役記者である仲村良太氏を講師にお招きし、記者の目から見たリアルな「沖縄のいま」をお話しいただきます。沖縄の基地問題を通して、日本平和や安全保障について、一緒に考えてみませんか？

お知らせ 開演後、すぐに仲村氏のご講演となります。

講師

なか むら りょう た
仲村 良太氏

1982年生まれ。沖縄県読谷村出身。琉球大学法文学部卒業。2005年琉球新報社入社。社会部フリー、社会部警察班、北部支社報道部を経て東京支社報道部勤務。警察班では米軍関係者の事件事故、東日本大震災・福島第1原発事故関係など取材。北部支社報道部では名護市長選挙や普天間飛行場の辺野古移設問題、東村高江のヘリパッド建設計画などを担当した。現在、東京支社報道部で沖縄振興や基地問題など沖縄に関する政治の動きを中心に取材している。



(連絡先)

2016三多摩憲法のつどい実行委員会

〒190-0022 立川市錦町1-17-5 三多摩法律事務所内 Tel.042-524-4321 Fax.042-524-4093